

2017.10.28

皆さんこんにちは。会長の新井です。

秋本番とはいえ、先週の 21 号台風が続いての 22 号、寒暖差が激しく私たちには堪(り)えるきわめて不安定な気候の中、本第 20 回総会にご参集いただきました。大変ご苦労様です。

また、お忙しいなか常日ごろより、ご指導・連携・ご協力をいただいております中央協、NTT 労組神奈川グループ連絡会そしてご来賓の皆様、大変ありがとうございます。

本日の参加者は、総勢約 230 名と、おそらく全国 1-2 の規模での開催となるものと思います。会場も、手狭な状況ではありますが、最後までのご協力をお願いするところです。

さて、昨年の総会で現体制となり早や 1 年が経過しました。役員の一一人ひとりの誠実さにささえられ役員会の運営も定着しつつあり、現役の皆さんとの連携、そして何よりも会員の皆さん方のご理解・ご協力のもと各課題に一定の成果・結果を出すことができたものと思っております。大変ありがとうございます。

以下何点か、思いを述べさせていただきます。

まずは、この 22 日投票の第 48 回衆議院選挙です。

結果は、自民党が、与党で改憲勢力「3分の2」超えを維持する大勝利を収め、早々、安倍首相は、合意できる党だけで改憲発議を目指すことを示唆するなど、私たちにとって、最悪な状況となってしまいました。

この間、NTT 労組は全国で推薦候補当選に向けた取り組みを展開し、組織内千葉 1 区「たじま要」、宮城 1 区「岡本あき子」、準組織内京都 6 区「山井和則」そして、重点候補 13 名、全員の当選を勝ち取るなど、このような状況の中にあっても一定の成果を見ることが出来ました。

私たち神奈川県支部協においては、各選挙区推薦候補への働きかけと併せ、組織内「たじま要」必勝のための比例代表・南関東ブロックへの対応をお願いいたしました。

改めて、会員の皆さん方の、全電通時代からのブレない政治姿勢に強く敬服するとともに、そこを曲げて組織的な対応へのお願いに、ご理解・ご協力いただいたことに対し心から感謝申し上げます。

支部協としての今次対応の評価・今後の取り組みについては、別途、上部からの提起を受け、報告することといたしますが、2年後の参議院選挙に向け 3 期目挑戦の組織内「吉川さおり」参議院議員の周知・徹底の取り組みをスター

トさせることといたします。

つぎに、東日本大震災、福島への復旧・復興についてです。

先月 9/27 に NTT 労組退職者の会の全国総会が行われました。その模様は NTT 労組新聞に、また支部協 HP にも掲載しましたが、福島県支部協から、「原発事故処理が進まない中、福島県富岡地区は、他の支部協に移転する人、脱会する人などで、地区協が存続できず、解散することとなった」との悲痛な報告もあり、6 年半が経過してもなお非常に厳しい状況にあること、をあらためて受け止めて来たところです。

被災者に対し、政府はことしの 3 月に「帰宅困難区域 2 万 2 千人」以外の避難指示を解除、また福島県は自主避難者の住宅無償提供の廃止、さらに東電は避難指示対象者への慰謝料(月 10 万円)も来年 3 月で打ち切るとしています。いずれも避難者を経済的に追い込み「早く福島へ帰れ」という圧力をかけ、東京オリンピックまでに事故に区切りを、またはなかったことにするという意図がありありとかがえる、と報じられています。

こういった状況のなか支部協は、『支部協ニュース』でも触れてきましたが、福島への復旧・復興はまだまだ遠い現実にあること、を心に留め、NTT 労組と連動した「風化させない」の取り組みに関わって来ました。

その一つとして、本年 4 月の藤沢・鵜沼海岸で行われた情報労連神奈川県協議会主催「復興支援チャリティー地引綱」への対応です。61 名の避難者の皆さんとともに、私たち退職者の会からの 62 名を加え 400 名をこえる参加者もと、現役の皆さんと一体となる活動に関わることが出来ました。

また、NTT 東日本神奈川事業部からのご紹介による、福島復興支援「福島ひまわり里親プロジェクトーひまわりを育て復興につなげよう」への取り組みです。種の収穫はこの悪天候のつづく中、思いのほか難しく、自然との闘いに悪戦苦闘。その結晶が、現在支部協に約 3 キロが届けられています。大変ありがとうございます。引き続きのご協力をおねがいするところです。

今後も東日本大震災、福島への復旧・復興に向け、より一層「風化させない」ことを重視した取り組みをすすめていくこととします。

続いて「災害の備え、いざという時」について、申し上げます。

先日、国は「地震は予知できないことを前提に、“地震が起きたら通報する”新たな対策を検討する」との報道です。予知が無理となると、それこそいつ起きてもよい備えが必要となります。「いざというときは自分で守れ、国は知らん？」とでもいうことでしょうか。

現在、「いざという時」の安否確認用連絡先の登録を全会員にお願いし、その整備を急いでおります。登録の趣旨は、「災害時のいざという時に安否や被災状況等を把握し、グループ連絡会のサポートを得ながら、具体的な共済手続

きの支援等の対策・活動に活用する」ことです。「困った時に助けてくれるのは、自分を含め自分たち」です。是非、ご理解・ご協力をお願いいたします。

組織強化に関連して、支部協ニュースの表彰について、申し上げます。

我が支部協ニュースが、先の全国総会で「優秀賞」に輝きました。

その受賞理由は一つとして、会員約 800 名から寄せられた近況報告を中心とし、会員相互の情報交換の場となったこと、2 つは、作成・印刷・約 3200 部の発送まで、すべて自前での取り組みであることなどが評価されたものと思われま

す。この間、編集委員会の皆さん、とりわけ岡田修編集長には、度重なる自宅での紙面作成作業などなど大変ご苦勞をおかけいたしました。この場を借りて感謝申し上げるところです。これを機に、さらに会員の皆さんに待ち望まれるニュースづくりに精進することといたします。

最後に、神奈川県支部協議会は、19 年前に神奈川、横浜両支部協が組織統合し、会員数 1499 名で発足し、本年 6 月末現在 3154 名と 3000 名の大台を超え、全国で会員 12 万 2 千名、47 支部協議会中 10 番目の規模となりました。明年 2018 年に 20 周年の節目を迎えます。その運動を先人・諸先輩が引き継ぎそして育てていただき、今日に至っております。次期第 21 回総会には、ささやかであっても記念の取り組みができるよう検討することといたします。

以上、雑駁に何点か申し上げましたが、もとより私たちは高齢者の集まり「退職者の会」です。ベロは達者でも、体力が伴いません。会員への共済手続きの支援、安否確認体制の確立、組織拡大、などなど各種活動・行動での大きな不足を、これまで以上に、現役の皆さんに支えていただきながら進めてまいりたい、との思いを付け加え挨拶とさせていただきます。大変ありがとうございました。